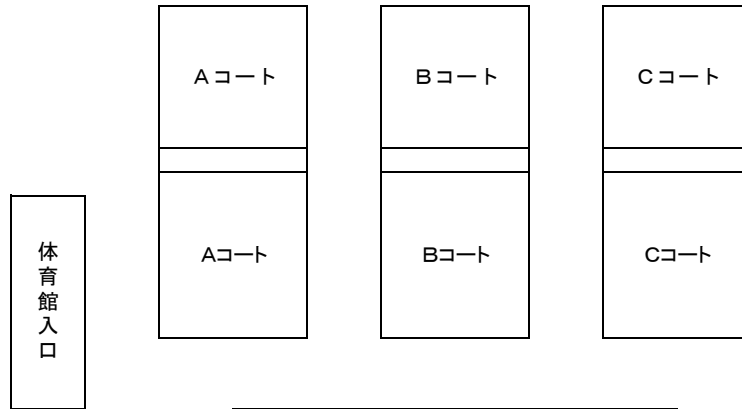


平成30年度 酒田南高等学校クラスマッチ ソフトバレーボール 実施要項

国体記念体育館座席配置

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------------|-----|-----|
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 1-4 | 1-5 | 2-1 | 2-2 | 2-3 3-3 | 3-1 | 3-2 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------------|-----|-----|



| | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2-4 | 2-5 | 2-6 | 2-7 | 2-8 | 3-4 | 3-5 | 3-6 | 3-7 | 3-8 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|

期日：平成30年6月14日(木)
場所：国体記念体育館 大アリーナ

実施方法：①基本ルール

- ・6人制のバレーボールルールを適用する。
- ・コートは6人制のバレーボールコートを使用し、ネットの高さは2m10cmとする。
- ・ローテーションは必ずすること。
- ・サーブはどこから打ってもよいがアンダーハンドサーブとする。
- ・バレーボール部員の参加については6人中1人だけ出場可能とする。
- ・選手の入替の回数制限はしない。
- ・最初のサービスはじゃんけんで決める。
- ・審判への質問はしてもよいが抗議は受け付けない。

②反則

- ・ネット上部の白帯に触れたらネットタッチとなる。
- ・センターラインを完全に踏み越し、相手コートに足が入ったらライン踏み越しとなる。

③進行

- ・学年オープンの6もしくは5チームリーグ戦方式(事前に抽選を行う)
- ・予選リーグは7分間1セットマッチとする。
※チームが交代する時間を3分間設けるので、各チーム準備すること。
- ・決勝トーナメントは21点1セットマッチとする。
- ・準決勝以上は15点3セットマッチとする。
- ・デュースは2点差がつくまで行うこと。
- ・各予選リーグの結果で決勝トーナメントの組み合わせが決定する。(別紙)
- ・コートは本部側が若い番号とする

④審判

- ・主審1名 ラインズマン4名 得点係2名とする
- ・各クラス3名の補助員を選出し、ラインズマン2名・得点係1名とする
- ・主審はバレーボール部員で行う※試合結果は審判が本部まで報告する。
- ・各コート次の試合の2チームが審判(補助員)を担当する。

役割分担

| 係 | 担当者 | 内容 |
|------|---|--------------------------------|
| 全体掌握 | 中原浩子校長 | 全体掌握 |
| 生徒掌握 | 各クラス担任 | クラス生徒掌握 |
| 会場準備 | 体育科教員、バレーボール部員、男女ソフトテニス部員 | コートの設置など |
| 記録 | Aコート 阿彦(●●) Bコート ●●(菅原恵理) Cコート 金山(平山) | 各コートの試合記録等(セット毎) (全体記録者 安達) |
| 広報 | 入試広報部 | 写真撮影・ブログ |
| 警備 | 生徒部 | 交通指導・巡回指導・指導計画作成 |
| 救護 | 本間加奈子 | 怪我、病気の対応 |
| 審判 | バレーボール部員(金山) | 審判割り振り 審判員の掌握(バレー部) |
| 放送 | 船田祐一 広報委員会 | 放送設備の準備 撤収 |
| 進行 | 菅谷由貴 文化委員会 | 開会式 閉会式の進行 試合進行の放送 |
| 用具 | 渋谷憲智 | 用具の準備 運搬 |
| 表彰 | 安達芳久 | 賞状の準備 |
| 清掃 | 文化委員会、運動委員会 | 終了後の清掃 ゴミ袋の手配 |